モッコリビキニ男勢ぞろい！！
街中の２０代前半新米社会人限定スイミングスクール
終わった後は女性インストラクターと・・・

繁華街の真ん中。
丁度店側の、歩道の邪魔にならない位置に立てかけられた大きめの青い看板。
「んははっ！！確かにぃ！・・・・でさ、この後どうする？？」
「えぇ！？？そりゃ行くだろ？二次会！！」
・・・・・・・・・・・・・・。
行き交う人々。
立ち並ぶ長細い商業ビルの一棟の３階は小さなスイミングスクールになっている。
このスイミングスクールには参加制限が設けられている。その制限とは２０代前半のそれも新米社会人のみというものだ。
駆け出しの社会人たちが、仕事終わりに通う。
癒しの側面と、デスクワークで運動不足になりがちな身体を無理のない水の中の運動で補うという運動不足解消の側面の二つを持っている。

ウィーーーンッッ・・・・。
素早いスピードで透明ガラスの自動ドアが開いた。
「こんにちは。生徒さんたちっ！！」
笑顔とウィンクで教室に入ってきたスーツ姿の３人の男子生徒を出迎えたのは、当スクール経営者兼インストラクターのナミエ。現在３１歳だ。
「こんにちは！今日もたっぷり泳げそうですっ！！」
満面の笑みで、新米サラリーマンたちは答える。
「良いことね！その意気込みで今日も頑張ってちょうだいっ！やっぱり運動って大切だからっ！！」
ナミエは優しく微笑んだ。
壁と天井が白一面のこじんまりしたエントランス。受付ではナミエの下でインストラクターもしている２７歳の社員、カナコが温和な表情で立っている。カナコは生徒たちとナミエの会話をしばし見守り、その後生徒たちから会員証を受け取る。

「お願いしますっ！」
「はぁいっ！！いってらっしゃいませっ！！」

時計の短針が５の字を回った。
男子更衣室では、もうこの日授業を受ける生徒たちが全員集まり、水着のブリーフ型ビキニに着替えていた。
「あぁ・・・仕事終わりの水泳はつらいっちゃつらいけど・・」
モッコリブリーフビキニの内部を揺らしながら話す男子生徒たち
「そうだな。でもひと泳ぎして体も鍛えないとさっ！」
短いビキニパンツであるため、着替えてもなおその大半が露出した太ももは、微細に動くたびに浮き出たり沈んだりして動く男らしい筋肉で構成されている。
「どんだけ疲れててもさ、“ここ”とか“ここ”は関係ないからなっ！！」
生徒のサトシが自分の二の腕と太ももを指さす。
「んっ？？ここか？？」
ユキヒトが自分の股間を指さして尋ねた。
「違うよ、モモだよ、太もも！！」
指し示す指の先端がユキヒトにとって曖昧だったようだ（笑）。
「んははっ！そっかそっか、ゴメン！！」
仕事ではデスクワークを中心に頭を使う作業。
頭、つまり脳も臓器とは言えど、やはり胴体・肢体の各部位の筋肉を使わなければならない。しかしホワイトカラーの仕事だけではそう言った部分をさほど使わないため鈍化するのを防ぐことは難しい。
それだけに背広とスラックスの内部の、逞しい男の肉体は鍛えたくてウズウズしているのだ。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと光栄です。